オレンジ肉色の干し芋用品種「ほしあかね」の安定栽培法

農業総合センター農業研究所

令和２年に国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構により品種登録出願公表された「ほしあかね」は、オレンジ肉色の干し芋用品種です。近年、サツマイモ需要が高まり、干し芋も高値で取引されるなか、オレンジ色の干し芋は多様な商品の一つとして有望です。

しかし、「ほしあかね」は過肥大しやすく、加工に不適な３Ｌ以上のサイズが多くなることや、肉色のオレンジ色がばらつくことから、これらを解決するための安定栽培法を確立しました。

加工に向く芋の収量向上

加工に適したＬサイズ（350 ～ 500g）の芋を多く得るためには、５月中旬に挿苗し、140日程度で収穫します（**図１**）。６月以降に挿苗すると収量が低下することや、在圃日数が長いと過肥大することに注意が必要です。

また、株間を20 ～ 25cmで挿苗するとＬサイズの芋が多く得られますが、30cm以上にすると過肥大が問題になります。

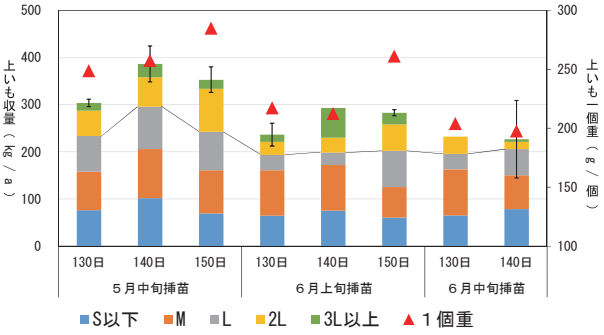
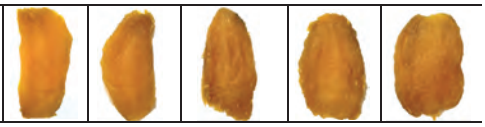


図１　挿苗時期毎の在圃日数と収量、１個重

表１　栽培条件の違いと干し芋加工後の肉色

苗の種類	非フリー苗（種芋）				
挿苗時期	５月中旬			６月上旬	
在圃日数	130日	140日	150日	130日	150日
a*値	13.6 a	13.4 ab	12.9 ab	11.6 ab	11.5 b
標準偏差 n=25	1.7	2.3	2.4	2.7	2.4
干し芋の様子					

注１）a*値（値が高いほど色鮮やかな赤であることを表す）、コニカミノルタ製CR-410型色彩色差計で測定。
注２）Tukeyの多重比較を行った。異英文字間で有意差有りを示す（p<0.05）。

肉色の向上

５月中に挿苗することで、干し芋加工後の肉色の赤みを示すa*値が安定して高くなります（**表１**）。一方、６月以降の挿苗ではa*値が低くなり、ばらつきの度合いを示す標準偏差の値が大きくなりました。

肉色の安定した干し芋を作るためには、５月中の挿苗が重要です。

安定栽培法の導入効果

最適な挿苗時期と在圃日数（５月中旬・140日）で栽培することにより、干し芋加工に向く規格の収量（上いも重）が向上し、上いも重が少ない挿苗時期と在圃日数の組み合わせ（６月中旬・140日）に比べると、粗収益は10ａ当たり15万７千円高くなりました（**表２**）。

今後は「ほしあかね」導入農家に向けて技術の普及を推進する予定です。

表２　挿苗時期等と粗収益

試験区	上いも重 (kg/10a)	干しいもA品製品量 (kg/10a)	粗収益 (千円/10a)	安定栽培法を活用したときの差額 (千円/10a)
5月中旬挿苗 140日	1941	314	430	－
6月中旬挿苗 140日	1232	200	273	-157

注１）上いも重は加工に適したM～Ｌ品収量とした。
注２）干しいも製品量は、歩留まりを20%とした。
注３）Ａ品製品量はシロタ程度から試算した。
注４）単価は1367円/kg（平成30年度経営指標より）。